

2026年2月号

カトリック二俣川教会
教会だより

No.390

(2026年2月1日 発行)



二十六聖人

《今月の聖人》 聖パウロ三木



巻頭言：病者に寄り添えるように

司祭として病者の塗油の秘跡や病者へ聖体を持っていくことが多いです。この「病者の塗油」とは、恐れと痛みを抱えている病者に、イエスが苦しみを共にし、司祭を通して直接触れてくださる秘跡です。

聖書には、イエスが病氣や障害を抱えた人に、深い憐れみを持って直接触れる姿が数多く記されています。行く先々で目の見えない人、耳の聞こえない人、熱を出して寝込んでいる人に触れ、さらには人々から見捨てられ、近寄ることすら恐れられていた重い皮膚病を思っている人に、直接触れます。そうしてイエスに触れていただいた人はみな、体も心も癒され、恐れと絶望から解放され、神の愛を信じる人生をはじめめるのです。

「病者の塗油」において、信じる人はみな、このイエスのわざを体験します。司祭が「いつくしみ深い主キリストが聖霊の恵みであなたを助け、罪から解放して、あなたを救い、起き上がらせてくださいますように」と唱えて額と両手に聖香油を塗るとき、人はイエスに触れているのです。だれにとっても、病氣はつらいものです。体の痛みもさることながら、恐れと孤独というものがあります。そんなとき、神が無限の愛を持って、その人を癒してくださいます。

かつてこの秘跡は「終油の秘跡」と呼ばれ、臨終の人に授けられていたことから、死の間際にならないと受けられないと誤解されてきましたが、これは死ぬための秘跡ではなく、信仰に強められて真に生きるための秘跡です。入院する前、手術の前など、いつでも、何度でも受けることができます。「老い」自体は病や障害ではないが、体が衰え、死を意識し、恐れと孤独と向かい合う日々こ

そ、イエスに触れていただく恵みを必要としているのではないのでしょうか。

そのような中であって毎年、2月11日は「世界病者の日」を迎えます。この日は聖ヨハネ・パウロ二世によって1993年から始まりました。そして、「ルルドの聖母の記念日」にもあたります。世界病者の日は、病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な援助を得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。(『カトリック教会情報ハンドブック』より)

今年34回目となる「世界病者の日」のために、教皇レオ14世が選ばれたテーマは「サマリア人の思いやり：他者の痛みを受け止める愛」です。教皇庁総合的人間開発省は、このテーマをめぐる声明で、福音書の「善きサマリア人のたとえ」に登場するサマリア人を中心に据え、追いはぎに襲われて苦しむ人の世話を引き受けることで愛を示すその姿を通して、隣人に対するこの愛を強調するもの、と述べています。愛には、具体的な寄り添いが求められ、わたしたちはそれを通して、隣人たちの、特にしばしば困窮や、孤立、孤独のために脆弱な状況に置かれた病者たちの苦しみを担う必要があります。現在も、イエス・キリスト、「善きサマリア人」は、傷ついた人類に近づき、教会の秘跡を通して「なぐさめの油と希望のぶどう酒」を注ぎ、病氣のために脆弱な状況を生きる人々への助けと寄り添いの行為・態度を励ましておられる、とこのように教皇様は述べています。またルルドの聖母は1858年2月11日に、フランスのルルド近郊のマッサビエール

の洞窟で、無原罪の聖母がベルナデッタに初めて現れました。ベルナデッタへの一連のマリア出現は、教会当局によって神聖なものとして承認され、ルルドが国際的な巡礼地になりました。（『毎日の読書』、『毎日のミサ』より）

現代も多くの方が様々な病気の癒しを願って、ルルドなどを訪れますが、奇跡的に病気が治る人は、ほんの一握りと言われます。しかしそこに行った多くの方は、病気が治らなくてもみんな喜んで帰って来て、また行きたいと思うそうです。それは信仰を取り戻して、再び生きる希望をもつことができるからです。

二俣川教会はたくさんの信徒の方々がいますが、その中には病気に苦しむ方、教会に足を運ぶことが出来ない方も多いと思います。私も病者の塗油や聖体を持っていくことは大変ではありませんし、なるべくそのような声に応えていきたいと思っています。しかし、そこには信徒の方々の協力も必要になってくるでしょう。今年の教皇様のメッセージも心に留めていきながら、「私たち共同体もサマリア人のようにそれぞれの隣人、病気や孤独にある方々の声に耳を傾けて寄り添い、励ましていく」ことが出来るように願いたいと思います。

マキシミリアノ・マリア・コルベ 内藤 聡

ホッとトピックス

～遠くメキシコの地で日本二十六聖人に出会う～

メキシコの首都メキシコシティから南に75キロ、モレーロス州の州都であるクエルナバカ(スペイン語で牛の角の意味)のカテドラルは、アメリカ大陸最古の教会の一つです。塙が高く要塞のような外観は、征服当初に先住民の反乱が頻発し、クエルナバカのスペイン植民者たちが教会に立てこもって防戦した為と言われています。



その中心施設である聖堂の内壁に、日本人カトリック教徒および外国人宣教師の殉教を題材にした殉教壁画が描かれています。二俣川教会の守護聖人である日本二十六聖人殉教者は、1597年、豊臣秀吉の命により長崎の西坂で処刑された訳ですが、この壁画の上には“Emperador Taycosama Martirizar Por~”(～の為に太閤様が殉教を命じた)と書かれています。この外国人宣教師の中に、メキシコ最初の聖人であるフェリペ・デ・ヘススが含まれていることが、この壁画が描かれた理由とも言われています。この壁画は1959年に、幾重にも塗り重ねられた石灰を取り除いたあとに発見されましたが、メキシコでは疫病が流行すると、公共の建物を石灰で塗りつぶしていたので、この壁画も石灰に埋められていたようです。

(「地球の歩き方・メキシコ」より抜粋)

私がクエルナバカでこの壁画を見てからもう13年の年月が経ちましたが、遠い外国の地で自分の所属教会の守護聖人の殉教を壁画という形で見る事ができた感動を忘れたことはありません。尚、この壁画は長崎の西坂公園にある博物館にもレプリカが飾られています。メキシコは遠いけれど長崎ならば行けそうと思われた方もおられるでしょう。是非、日本二十六聖人殉教者の祝日(2月5日)のある2月、或いは翌月にでも訪問されてみてはいかがでしょうか。

(広報委員会)



2026 年 1 月 (1 月 11 日 開催)

【検討事項】

1. 教会委員会規約が改正されました。改正されたのは次の二点です。
まず、旧事務所長(現事務管理代行)は副委員長の兼務なので、事務所長を教会委員から削除しました。また、副委員長の職務増加のため、旧規約で二名以内に限定されている副委員長数を増員できるようにしました。
2. 信徒実態調査を開始しますので皆様ご協力ください。調査項目は皆様の年齢、ミサに与る頻度、性別です。詳細は今週のお知らせなどをご覧ください。
この調査の結果は、10 年後 20 年後の信徒数や年齢分布を予測するための基礎資料として活用されます。
3. 現在、教会では天災、戦争被災者のために複数の募金を集めていますが、募金数が無制限に増えるのを防ぐため、一部を終了することにしました。今後、開始から半年経過した募金については、教会としての募金活動を終了するか継続するか教会委員会で判断します。

【報告事項】

1. バザー、クリスマス献金を合わせて 6 万円超の年末福祉献金が集まり、支援 7 団体に例年通りの金額をお渡しできました。皆様のご協力に感謝します。
2. ホームレスの方々を支援している木曜パトロールからの依頼で、中古毛布を集めていました。献品と教会の不要毛布を合わせて 10 枚以上集まったので、木曜パトロールの鈴木真神父様にお渡しする予

定です。ご協力ありがとうございました。

【フリーディスカッション】

2050 年を考えるディスカッションの第三回目を行いました。今回のテーマは、次第に高齢信徒の比率が高まるなかで起こる変化です。出された意見は次のようなものです、これらをもとに 2050 年委員会が詳しい検討を進めます。

「子供や若い人が少ないと教会に来た若い人は居場所が見つけられない」「子ども連れの信徒の多くは外国籍になるだろう」「自分の葬儀で奉仕してくれる人がいるか心配」「教会活動の後継者がいない、若い人は少ないし仕事で忙しい」「建物維持の固定費が増えるのに収入のある人は少なくなる」「高齢者は世間的には保護される側の人だが、高齢だから出来る教会活動があるはず」

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・枝の回収は 2 月 11 日(水)まで。マリア像前に箱を用意しますので袋から出してその中に入れてください。
- ・十字架の道行き：2 月 20 日(金)より毎週金曜日 9:20 より行います。
- ・ベネディクション：3 月 5 日(木)19:00 より行います。

2. 教会学校

- ・2 月予定 2/1(日)9:00 から教会学校と初聖体クラス、2/8(日)9:00 から侍者会と初聖体クラス、同日 10 時ミサ後リーダー会

2/15(日)9:00 から教会学校と初聖体クラス、2/22(日)は休み。

- ・初聖体クラスが始まりました。お祈りでの応援をよろしくお願いします。

3. キリスト教講座

- ・2/21(土)四旬節黙想会 13:30～
テーマ「君は愛されるために生まれた」
講話：シスター永本紀美子(エスコラピアス修道女会)
- ・2/22(日)入信志願式(於：藤沢教会)

4. 共同墓地委員会

- ・12月活動実績 生前予約者1名に対応中。
- ・2/1に上大岡共同墓地の合葬墓(新設予定)について設計者と意見交換する予定。

5. ヨゼフ会

- ・1/11 新年会にコーヒー提供。
- ・1/18 定例会、1/25 コーヒー光を予定。

6. マリア会

- ・1/22(木)マリア会総会準備、1/25(日)総会。総会後にキーマカレー(有料)を食べながら懇親の場を用意。
- ・パーティー係 新年および新成人を祝う会準備 1/10(土)、1/11(日)パーティー当日
- ・アンナ会 1/26、2/9 活動予定
- ・ステラマリス帽子を編む会 12/19 実施。
1/16(金)、1/22(木)、2/20(金)、
2/26(木)活動予定。

- ・ボリビア支援グループ のんびり日曜日
12/14 実施、1/18、2/1 予定。1/16(金)会議予定。

7. 青年会

- ・1/11に青年のミサとその後の新年会で二十歳のお祝いを行いました。パーティー係や典礼の皆さんのご協力に感謝します。
- ・12/21に修道会の方々に向けて「わかちあいたいかい」の案内はがきを送りました。
- ・12/21にインターファミリーの方々と一緒に「みんなで歌おうクリスマス」を行いました。盛り上げてくださり、ありがとうございました。

8. インターファミリー

青年会と協力して「みんなで歌おうクリスマス」を実施しました。その後、ミーティングと持ち寄りパーティーを行い、20名ほどが参加しました。

9. 一粒会

2026年1月より一粒会月定献金は教会維持費の封書に統合されます。従来の献金袋を使用されている方には個別に対応致します。

10. 地区世話人会報告

1/25に地区会見直しプロジェクトの打合せを行います。

以上



《 今月の意向 》 ■ 2月

教皇の意向： 難病の子どもたち

難病の子どもたちとその家族が、必要な医療と支援を受けることができますように。そして、力と希望を失うことがありませんように。

日本の教会の意向： 信仰の証し人

信仰の証し人の取り次ぎを願って祈ります。多くの苦難の中にあっても深い信仰を保った日本の殉教者に倣い、より一層神に信頼と希望をおくことができますように。

(カトリック中央協議会ウェブサイトより)

- 「新成人のお祝い」が1月11日のミサの中で行われました。当日の参加者はお一人でしたが、二俣川教会では6人の方々が成人を迎えました。二俣川教会共同体の皆様で、彼らの新しい門出を祝い、見守り、助けながら一緒に歩んで参りましょう。



参加されたI・Jさんと
ご家族の皆さん

- 教皇庁は、教皇レオ十四世が2026年1月10日から2027年1月10日まで、聖フランシスコ没後800年を記念する「聖フランシスコ年」とすることを発表し、同期間に全免償を与える教令を公布しました。今後の取り組みなどの情報は、本誌で取り上げてまいります。
- 2月22日(日)に藤沢教会にて、今年の復活祭での受洗を目指す方々のための合同入信志願式が行われます。今年は5名の方々が参加される予定です。
- 今年は2月18日が灰の水曜日で、四旬節が始まります。四旬節中、毎週金曜日の9:20から十字架の道行が行われます。また、2月21日(土)には四旬節黙想会が行われます。詳細は、ロビーのポスターをご覧ください。

聖歌隊より “2026年2月”



今月から、主日ミサの拝領の時に聖歌隊が歌う歌の訳語と、若干の解説を掲載することになりました。

- ☆2月1日に歌うのは「O salutaris」です。この教会特有の聖体讃歌です。この歌の大意は“おお、救いのいけにえ、天の扉を開く者よ。戦いに向かう私達に、力と助け与えたまえ。三位一体の主に永遠の栄光あれ。終わりのなき命を天国で与えてください。”です。
- ☆2月8日の歌は「二十六聖人讃歌」です。教会の創立15年の時募集した歌の一つ。選には漏れた歌の中から選んだ二つの歌の一つ。A. H. さんが作った歌を聖歌隊で歌います。
- ☆2月15日は子どもミサですので、「神様は軒の小雀まで」を歌います。この歌はプロテスタントの讃美歌にある子ども向きの讃美歌です。
- ☆2月22日の歌は「Super flumina Babylonis」です。“バビロンの流れの辺りの柳に豎琴をかけ、シオンを思いすすり泣いた。”と言う紀元前600年くらい前に起こったバビロンの捕囚の時を歌った詩篇第137篇に16世紀の作曲家 Palestrina が作曲した音楽で、この時代の聖歌として代表的な音楽です。この時代の音楽は教会音楽の模範といわれ、この響きは典礼に聖なる響きをもたらすものです。

きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会 教会学校

2026 年 2 月

【2 月の予定】

- ・2 月 1 日 初聖体クラス、教会学校
- ・2 月 8 日 初聖体クラス、侍者会
- ・2 月 15 日 初聖体クラス、教会学校



【初聖体クラスのおともだち】

1/18 から初聖体クラスが始まりました。
その日のミサで今年の 6 名のメンバーの紹介がありました。
6/7 の初聖体に向けて、みんなイエス様と
仲良くなれるように、ご聖体をいただく準備をします!!
保護者の方、子どもたちのために
みなさまのお祈りよろしくお願いいたします。



【1/18～ 教会学校】

2026 年の教会学校が始まりました。新しい学年に進級するまで、あと数か月…
寒い季節ですが、子どもたちの健康がどうか守られますように、神さまお守りください。



【1/11 侍者会のようす】

昨年の 6 月に初聖体を受けた子どもたちも、
侍者として頑張っています。
教会学校とは別に、侍者会にも出て
神父様や、典礼の係の方のお話を聞いて、
侍者として神さまに
お仕える大事なはたらきを学んでいます。
喜んで、お仕えできるように、みなさまのお祈りを
よろしくお願いいたします。



今年も初々しい新成人の誕生、おめでとうございます。1月11日(日)10時ミサ後には新年会を兼ねたお祝い会に多くの方が参加して喜びを分かち合いました。祝賀会にはいつものようにパーティー係の方々が腕を振るってくださった、彩鮮やかなご馳走が並びました。いつも何日も前から献立を話し合い、買い物や下準備に奔走し、早朝から総力を挙げて料理を作ってくださいメンバーの献身！感謝しかありません。



今回のメニューは、味卵とちくキュウ・オン・辛子酢味噌マヨソース、春の彩り寿司、唐揚げポテチ、ショートパスタ・ナポリ、カナッペ、果物盛り合わせ、お祝いケーキにはヨゼフ会のコーヒーを添えて。どれも美味しく話にも花が咲きました。ちなみに、「あの料理が美味しかったね」「ソースの作り方教えて」そんな料理の感想が聞けたら嬉しいそうです。私はちくキュウと味噌マヨネーズソースのベストマッチが気に入りました！

さて、新年を当たり前のように祝う私たち。でも、世界のあちこちで貧困や争いに怯えながら過ごす人々には、当たり前の日常さえ



無い。改めて平和で安心な暮らし、いつでもミサに与れる幸せに感謝。今年は誰もが安心して暮らせる善い一年となりますように。



←パーティー係の皆さんです！

マリア会 I. N.

★今月の表紙★

今月は、2月5日の『日本二十六聖人殉教者』の祝日がありますので、その中の1人、聖パウロ三木を選びました。実は、ローマ教会の定めにも則って諸外国では『聖パウロ三木と同志殉教者』の祝日として、2月6日に祝われています。イエズス会の修道士であった聖パウロ三木は西坂の刑場で十字架の上に掛けられても心乱さず、十字架を祭壇として、命のある限り説教を続けました。写真は、長崎の二十六聖人記念館の館内にある、澤田政廣作の大きな聖パウロ三木像(1962・木彫)です。

【編集後記】新しい年を迎えると、小さくても大きくても自分の生活における“今年の目標”を立てたり、自分としての“今年のキーワード”を考えたりすると思います。では、信仰についてはどうでしょうか？そもそも生活と分けて考える必要は無いかもしれませんが、でもあえて、何を深めようか、何を心に留めて奉仕しようか…など、考えるのもいいかなあと思っています。昨年は通常聖年で『希望』や『巡礼者』という言葉に導かれたように思います。今年は、特別な聖フランシスコ年から、ヒントを戴けるでしょうか…。

(O.Y.記)